

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

“Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Plookpanya School



神石高原町立三和中学校

交流の概要

学年：第3学年、第2学年

単元名：第3学年 Lesson 4 Bollywood Movies

ねらい

互いの国や学校の特色について発表することができる。

Lesson 5 Translating Culture

おすすめのアニメや漫画について発表することができる。

Lesson 6 Being Fair

互いの国の訪れるべき場所について伝え合うことができる。

第2学年 Lesson 6 Friends from Singapore

自分が興味のあることについて発表することができる。

(NEW CROWN English Series 3, 2)

ジェスチャーも取り入れて
何とか伝えようとしてました。



3会場に分けて、周りにあまり人
がいないように工夫し、できる
だけ自分たちの力で会話をする状
況を作りました。



活動内容：

①挨拶・説明（全体）

簡単な挨拶と説明を行った。

②会話（グループ）

3分間のプレゼンテーションと、その内容に関する質疑応答を行った。

1回目（第3学年）：自己紹介、互いの国や学校の紹介

2回目（第3学年）：アニメやマンガなど、互いの文化の紹介

3回目（第3学年）：互いの国の旅行プラン（有名な観光地、食べ物等）紹介

4回目（第2学年）：自己紹介、興味のあることや趣味の紹介

③フリートーク（グループ）

好きな食べ物、趣味、互いの国の流行などについてやり取りした。

④フィードバック（全体）

各国の教員が生徒を指名し、感想などについてインタビューを行った。

各自の発表は事前に準備したが、その後の質疑応答は即興的な会話になるため、生徒にとって大きなチャレンジであった。しかし、なんとか聞き取るう、伝えようと努力する姿が見られた。また、3年生は、3回目の交流になると緊張もかなり解けており、タイの生徒とも随分親しくなっている様子があった。

《交流方法：Zoom》

大切にしたこと

- 生徒1人1人の活動量を多くするため、ブレイクアウトルームを活用して、少人数で交流するようにした。
- 会話を継続させるために、「困ったときの質問集」を用意したり、色々なトラブルを想定して、様々な場面で使うことができる表現集を作ったりした結果、生徒はそれらを活用して会話を継続させようとしていた。
- 4回目に2年生が交流することを見通して、3回目の3年生の交流の際に、2年生も一緒にブレイクアウトルームに参加させたことがよかった。4回目に向けて、交流のイメージを明確にもたせることができた。

生徒の声

- 発表はできるだけ質問されると聞き取れないことが多くて、何回も聞き返した。リスニングの力を鍛えたけれどまだ足りないで、2倍速でリスニングをするなどして頑張りたい。
- 発表からフリートークまで幅広い会話が盛り上がって交流できたのでとても楽しかった。
- 何気ない会話も英語ですることができたので、なんでも恐れずに話したら通じることがわかった。自分が紹介した内容をタイの人が復唱してくれたことで、理解してもらえたとわかり、とてもうれしかった。英語の文法や単語は知識として身につけることも大切だけど、実際に活用する機会が多ければ多いほど英語が身につくと思った。

交流を終えて

先生の声

海外の人と生のコミュニケーションを取る機会は減多にないので、この事業を受ける前から、必ず貴重な経験になると思っていた。そして、事業を終えての感想は、想像以上の効果があったと感じた。生徒にとって、英語に対するイメージが「授業」から「コミュニケーションツール」に変わったように感じた。コミュニケーションを取る喜び、難しさを体験できたことは、必ず今後の学習に繋がると思うし、外国に対する「心の距離」も近くなったのではないかと思う。教師側として運営方法など不安も感じていたが、やってよかったと思う。